

国際平和と拠点ひろしま構想推進計画(2025～2027年度)の概要

現行計画の取組(2022-2024)と成果		次期計画の目指す姿	次期計画の方向性と主な取組	推進計画目標	ビジョン目標
【背景と狙い】ロシアによるウクライナ侵略など、核兵器を取り巻く国際情勢は厳しさを増し、多くの国が核抑止への依存を高めていく。こうした中、被爆・終戦80年は、被爆地から核兵器廃絶への力強いメッセージを世界に発信し、核兵器のない平和な世界を実現する決意を新たに作る機会として非常に重要であり、日本被団協のノーベル平和賞受賞と合わせて、廃絶に向けた国際的な機運を高めていく弾みの年となるよう、取組を大きく進めていく。					
1 核兵器廃絶に向けた新たな政策づくりと多国間枠組みの形成		1 核兵器廃絶に向けた新たな政策づくり		核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成を目指し、国際環境・体制を確立する。	(2025)多国間枠組を構築すること、国連加盟国の過半数が賛同 (2030)多国間枠組みに核兵器国を含む全ての国が参加
(1) 核抑止に替わる新たな安全保障政策づくり ○ 核抑止に替わる新たな安全保障に向けた提言の作成 ・英国王立防衛安全保障研究所(RUSI)などへの研究委託 ・G7広島サミット関連公開イベント「核抑止を再考する」の実施 ・公開イベント「変容する国際安全保障と核兵器」の実施 ○ 新たな安全保障政策に向けた提言の国際社会への発信 ・ひろしまウォッチの作成・発信 (2) 国際的な合意形成を目指した多国間枠組みづくり ○ 国連加盟国への働きかけ ・NPT運用検討会議への参加 ・フレンズ会合の設置準備 ・対話イベントの実施 ○ 安全保障政策の転換に向けた人材育成		【安全保障アプローチ】 ○ 国際社会において、核抑止に頼らない新たな安全保障のあり方について、理論的な裏付けとなりうる、有力な研究が複数行われている。 ○ 国際社会において、核抑止に頼らない新たな安全保障のあり方への理解が広がり、各国政府や市民団体での賛同が拡大している。 (1) 核抑止に頼らない新たな安全保障のあり方に向けた調査研究 ○ 核抑止に頼らない新たな安全保障のあり方に向けた研究の推進 ・核兵器廃絶に向けた核軍縮の具体的なプロセスの進展や核抑止に頼らない新たな安全保障のあり方の研究に資する調査やプロジェクトの支援 (2) 国際社会への積極的な働きかけ ○ 核抑止に頼らない新たな安全保障のあり方に関する研究の重要性及び成果等の国際社会への発信 ・NPT運用検討会議や核兵器禁止条約締約国会議などの場を活用			
2 平和の取組への賛同者の拡大と世界への働きかけ		2 多国間枠組みの形成を目指した国際社会への働きかけと賛同者の拡大			
(1) 賛同者の拡大と人材育成 ○ ひろしまイニシアティブ実現に向けた提言案の作成 ○ 核兵器廃絶に取り組むNGO・NPOとの連携 ・「グローバル・ライアンス「持続可能な平和と繁栄をすべての人に」」(GASPPA) 設立 ○ 賛同者拡大に向けた関心者の拡大 ・ユース大使の任命 ・未来へのおりづるキャンペーンの実施 ・G7広島サミットレガシー・プロジェクト「若者たちのピース・キャラバン」実施 (2) 多様な主体との連携 ○ 社会的諸課題に取り組む多様な主体との連携 ・「グローバル・ライアンス「持続可能な平和と繁栄をすべての人に」」(GASSPA) 設立(再掲) ・核兵器禁止条約締約国会議、国連ハイレベル政治フォーラム、国連未来サミット、グローバル・シティーズ・ハブでの働きかけ ○ 世界的な影響力のある者との連携 (3) 広島からの核兵器廃絶メッセージの継続的発信 ○ 被爆の実相の伝承と核兵器廃絶の訴え ・国際賢人会議の活用 ○ 各国の政府関係者・機関や国際世論形成に影響力を持つ者・団体等による広島訪問の推進 ○ 国際会議の広島開催誘致 ・G7広島サミットの開催		【持続可能性アプローチ】 ○ 核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成を目指した多国間枠組みの形成に向けて、各国政府の賛同を得ている。 ○ 核兵器問題が、人類及び地球全体の持続可能性に対する大きな脅威であるとの国際的な認識が高まっている。 ○ 環境や人権といった社会的諸課題の解決に取り組む多様な主体との連携が深まっている。 【非人道性アプローチ】 ○ 非人道性の観点から、各界のリーダーをはじめとする世界の多くの人々に核兵器廃絶への信念を共有してもらい、核兵器廃絶の国際世論が高まっている。 (1) 国際的な合意形成を目指した多国間枠組みづくり ○ 各国政府への働きかけ ・フレンズ会合の立ち上げ (2) 多様な主体との連携 ○ 核兵器廃絶に取り組む多様な主体との連携 ○ 社会的諸課題に取り組む多様な主体との連携 ○ 世界的な影響力のある者との連携 (3) 広島からの核兵器廃絶メッセージの継続的発信 ○ 被爆の実相の伝承と核兵器廃絶の訴え ・国際会議や世界的イベントの活用 ・各国の政府関係者・機関や国際世論形成に影響力を持つ者・団体等による広島訪問の推進 ・国際会議の広島開催誘致 ○ 安全保障政策の転換に向けた人材育成 ・若手研究者や実務家等の広島招聘			
3 広島が有する経験や資源を生かした復興・平和の構築		3 次世代平和人材の育成			
(1) 復興・平和構築人材の育成強化 ○ 県内の人材育成機関・教育機関との連携 ・ユース非核リーダー基金プログラムへの協力 ・G7広島サミット パートナーズプログラムの実施 ○ 賛同者拡大に向けた関心者の拡大(再掲) ・G7広島サミット レガシー・プロジェクト「若者たちのピース・キャラバン」(再掲) (2) 放射線被曝者医療国際協力の推進 ○ 放射線事故及び災害に対応できる医療人材等の育成		○ 若い世代が、核廃絶に関わる専門知識を習得し、核軍縮を取り巻く厳しい国際情勢を打破し、国際社会で活躍している。 また、復興を支える取組に参画するなど様々な形で平和を希求する活動に関わっている。 ○ 被爆者治療などの広島の見聞を学んだ人材が世界各地で活躍している。 (1) 核兵器廃絶・平和構築に向けて活躍する人材の育成 ○ 県内の人材育成機関・教育機関との連携 ・「被爆80年人材育成事業」の実施 (2) 放射線被曝者医療分野で活躍する人材の育成 ○ 放射線被曝者医療国際協力の推進			
4 持続可能な平和推進メカニズムの構築		4 持続可能な平和推進メカニズムの基盤整備			
(1) 様々な主体が参画するプラットフォームの構築 ○ 経済界との連携強化 ・世界平和経済人会議ひろしまの実施 ○ 活動基盤の構築 ・「へいわ創造プラットフォームひろしま」をウェブサイト上に設置 ○ プラットフォームを構成するコミュニティの形成 ・上記プラットフォームへの登録企業・団体の拡大 (2) 情報発信機能の充実 ○ ターゲットに応じたコンテンツ・プロモーションの充実 ・ウェブサイト運営し、ターゲットに応じたコンテンツ作成や、SNS等を活用したプロモーションを実施 (3) 拠点構想の推進 ○ センター機能の整備・強化 ・民間企業からの大口の資金獲得		○ 様々な主体が参加するプラットフォームを構築し、世界の平和活動の進展に貢献できている。 ○ 情報発信機能が充実し、平和の取組に資するウェブサイトとして認知、活用されている。 ○ 核兵器のない平和な世界の実現に向け、様々な資源が、大規模に投下され、具体的に貢献するための基盤が整備されている。 (1) 様々な主体が参画するプラットフォームの構築 ○ 経済界を中心としたマルチステイクホルダーとの連携強化と取組拡大 ・「2025ひろしま国際平和&ビジネスフォーラム」の開催 (2) 情報発信機能の充実 ○ ターゲットに応じたコンテンツ・プロモーションの充実 (3) 拠点構想の推進 ○ 核兵器問題解決に向けた資源投下の機運醸成 ○ センター機能の整備・強化 ・へいわ創造機構ひろしま(HOPe)の社団法人化 ・財務基盤の強化			

核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成を目指し、国際環境・体制を確立する。

(2025) 多国間枠組を構築することにより国連加盟国の過半数が賛同

(2030) 多国間枠組みに核兵器国を含む全ての国が参加